

令和3年度涌谷地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

涌谷町は大崎平野の東に位置し、南を江合川、北を迫川、東を北上川に囲まれ、水量豊富で水利に富み、中央部は箕岳山と加護坊山を結ぶ丘陵が東から西方向にのび、その南側及び北側に耕地が広がっている。古くから「ササニシキ」や「ひとめぼれ」に代表される良質米の主産地であり、水稻を基幹作物としながら繁殖牛・小ねぎ・ほうれん草等の優良農畜産物を産する県内でも有数の町で、国の食糧供給地域として重要な役割を果たしてきた。

現在、町内では3つの地区で大区画ほ場整備事業を実施・計画しており、今後更に水田をフルに活用した土地利用型農業の生産性向上等をすすめていく必要がある。

一方、農業者の高齢化が進んでおり、今後更に高齢化が進むことで、農業従事者、農家戸数も年々減少していくものと見込まれるため集落営農、法人、認定農業者等への集積・集約化の推進が必要である。

令和3年から数年は新型コロナウイルスによる主食用米の過剰在庫を解消するため、今までの計画を大幅に見直し、非主食用米などの作物に転換し、農業者所得の確保を図っていく。

主食用米の生産については、良質米の産地として需要に応じた数量確保に努めている。

麦・大豆については、団地化や新技術導入の支援によりコスト削減や、単収向上に取り組んできたが、天候等により作柄変動が大きくなっている。

大豆については6次産業化を推進するにあたり当地域内で需要もあり、需要量を満たすための生産拡大を推進する必要がある。

新規需要米については、飼料用米・加工用米の生産により対応する計画であり、WCS用稲については、畜産農家や実需者の需要量に応じた生産を行うことが必要である。

以上を踏まえ、水田をフルに活用し主食用米はもとより、麦・大豆の産地化をはじめ、加工用米や飼料用米の推進、また露地野菜等の土地利用型園芸や施設園芸の生産拡大を図るとともに担い手等への農地集積・集約化により当地域の安定かつ特色ある水田農業の確立に向け推進していく。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

涌谷地域は平成に入ってから水稲＋小ねぎ・ほうれん草を軸に複合経営を推進してきたが、当初始めた農業者の高齢化・後継者問題等で減少傾向にあるが、複合経営から施設野菜の単一経営で規模拡大し、法人化も進んできている。

水田収益力強化ビジョンで推進しているねぎ・青ねぎは、以前は市場向けが多数を占めていたが、特に青ねぎは調整段階で廃棄する部分も多かったため、収量が伸び悩み、それに伴い生産戸数も増えなかった。しかし、実需からの要望も増え、加工することで廃棄する部分も減ることから収量の増加が見込まれるため、生産体制の整備を国や県の補助事業を活用し規模拡大につなげ、収益を確保する。

現在圃場整備事業が実施・計画されている地区（出来川左岸上流地区・下流地区）において、ねぎ・青ねぎ・たまねぎを水田農業高収益化推進計画に定め、水稲・麦・大豆・露地野菜を含めたブロックローテーションを行い、転作後の圃場は土壌診断を行い、業務用米や飼料用米を低コストで生産できるよう推進していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

米中心の営農体系から野菜等の高収益作物を導入した営農体系への転換など、農業者の自立的な経営判断に基づく生産を促すため、水田における畑作物の導入と品質向上・収量増を可能とする水田の畑地化や畑作物に軸足を置いた汎用化を推進する必要がある。

涌谷地域は現在3地区の圃場整備事業（鹿飼沼地区・出来川左岸上流地区・出来川左岸下流地区）があり、特に西地区は小ネギ・ほうれん草・みず菜・長ねぎ・青ねぎの生産が盛んなことから、圃場整備事業の進捗に合わせ、小ねぎ・ほうれん草ハウス整備、長ねぎ・青ねぎ・たまねぎの露地野菜を計画しており、国・県の補助事業等の導入も検討しながら畑地化の推進を図る。

また、水田の利用状況については、水稲・飼料用米・ホールクroppサイレージを組み入れない作付体型が数年以上定着し、畑作物のみを生産している水田の生産実績を点検し、その点検結果を踏まえ、畑地化を含めた水田の有効利用について今後検討する。

4 作物ごとの取組方針等

（1）主食用米

米の需要を見極めつつ、食の安全性が重要視される状況になっているため、生産履歴記帳の定着化を推進し、本町作物の安全性をアピールしていく。

市場評価の高い「売れる米」を生産するために、転作ブロックローテーションを推進し、転作後地の高たんぱく米回避のため業務用米「まなむすめ」「萌えみのり」の作付けを普及する。

また、実需者から要望される米を確保していくために、常温除湿乾燥で自然乾燥米に近いカントリーエレベーター米や特別栽培米等のこだわり米を推進していくとともに、こだわり米として低タンパクな「ササニシキ」や良食味「ひとめぼれ」など主力とし、新たに「だて正夢」また、健康志向の「金のいぶき」を推進していく。

作期の分散により低温等からの危険分散を図り、高品質な米の栽培を目指す晩期栽培の取り組みを拡大していく。

水稲栽培の低コスト化を図るために、担い手への土地利用集積や直播栽培、機械の共同利用、無人ヘリによる共同防除等を推進していく。

(2) 備蓄米

国から配分される県別優先枠の作付は、需給調整の手段として安定的に活用できることから、継続的に維持・確保していく。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

需要に応じた麦・大豆、備蓄米の作付を最大限に行った上で水田フル活用の基幹作物として、団地化や直播栽培等による低コスト化を図り、実需者の需要量に応えるため、複数年契約を締結し飼料用米の作付拡大を推進していく。

また、多収品種の導入により多収量を目指すとともに、主食用米での需給調整の実効性を確保するため一般品種での取組についても推進していく。

イ 米粉用米

米粉用米については、農業者が取り組みやすい米対応の転作作物であることから、これまで実績はないが生産拡大について検討する。

ウ 新市場開拓用米

国内の主食用米需要が低迷する中、高品質な国産米を生産することで、米価維持を図る観点から生産拡大について検討する。

エ WCS 用稲

WCS 用稲については、畜産農家の実需者からの需要が一定の水準に達していることから、作付面積は団地化や集積により低コスト化等を図りながら現状を維持する。

オ 加工用米

加工用米については、農業者が取り組みやすい米対応の転作作物であることから、販売先の確保、また担い手に集積することで生産拡大を推進していく。

(4) 麦、大豆、飼料作物

ア 麦

小麦については、実需者と播種前契約を結ぶことから、実需者ニーズを満たす数量を生産するとともに、実需者が求める加工のし易さ、また、高タンパク質の麦を生産するため、新たな品種（夏黄金）の生産拡大を進めながら、栽培管理、安全と安心のための栽培履歴の記帳を徹底していく。

単年毎のブロックローテーションによる固定団地で取り組んでおり、今後とも団地化等により生産コストの低減を推進していく。後作に大豆を播種する二毛作を取り入れた農用地の活用による生産拡大を図り、適期播種による高品質な小麦の生産と作付面積に応じた採種圃を設定していく。

大麦については、大豆二毛作体系の普及に向けて実需者要望を検証しつつ、令和4年産の作付目標に向け取り組む。

イ 大豆

大豆については、実需者と播種前契約を基本にニーズを満たす数量を生産するとともに、栽培履歴に基づいた高品質栽培管理や栽培履歴記帳の徹底を図る。

団地化により生産コストの削減を図り、1年1作による適期播種の推進とあわせ麦後作の二毛作を取り入れた農用地の活用による生産拡大、適期播種による高品質な大豆の生産と狭畦栽

培等の新技術等への取り組みを推進し、安全安心で高品質・高単収の大豆を生産していく。

また、ミヤギシロメでの「まちの豆腐屋プロジェクト」による6次産業化の普及・定着を図るため生産拡大を推進する。

ウ 飼料作物

飼料作物については、農用地の有効活用による良質粗飼料の生産を基本に地域内粗飼料自給率の向上を図るため、産地交付金を活用し団地化による作業集積や二毛作を推進するとともに、汎用型飼料収穫機の使用により良質のホールクロップサイレージやデントコーンサイレージの生産を推進していく。

(5) そば、なたね 取組なし

(6) 高収益作物

収益性の高い農業を目指し、水田を活用した加工・業務用野菜など土地利用型園芸を推進するとともに、施設園芸の規模拡大等及び露地野菜への取組を支援し、農家所得の向上を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積 等 (ha)
主食用米	1,766.9	1,700.0	1,720.0
備蓄米	42.1	29.5	35.0
飼料用米	215.6	240.0	250.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	5.0
WCS用稲	17.6	20.0	20.0
加工用米	0.0	0.0	2.0
麦	149.6	220.0	250.0
大豆	235.8	250.0	270.0
飼料作物	173.6	180.0	180.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
そば	0.0	0.0	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0
高収益作物	21.5	30.0	33.0
野菜	14.8	21.0	24.0
・長ねぎ	3.4	5.0	8.0
・青ねぎ	5.7	6.0	6.0
・未成熟そらまめ	2.6	4.0	4.0
・にんじん	0.2	0.5	0.5
・たまねぎ	1.1	3.0	3.0
・トマト	1.1	1.5	1.5
・ブロッコリー	0.7	1.0	1.0
その他高収益作物	6.7	9.0	9.0
・ハトムギ	6.7	9.0	9.0
畑地化	0.0	0.0	5.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	
1	麦 (基幹作物)	団地加算助成 (麦)	180a以上の連担団地化 10aあたり労働時間	(令和2年度) 133.6ha (令和2年度) 3.8h/10a	(令和5年度) 220ha (令和5年度) 2.6h/10a
2	大豆 (基幹作物)	団地加算助成 (大豆)	180a以上の連担団地化 10aあたり労働時間	(令和2年度) 182.8ha (令和2年度) 3.9h/10a	(令和5年度) 270ha (令和5年度) 2.9h/10a
3	飼料作物 (基幹作物)	団地加算助成 (飼料作物)	飼料作物団地化面積 10aあたり労働時間 青刈りとうもろこし その他飼料作物	(令和2年度) 124.1ha (令和2年度) 3.5h/10a (令和2年度) 4.8h/10a	(令和5年度) 175ha (令和5年度) 3.3h/10a (令和5年度) 4.3h/10a

4	麦・大豆 (基幹作物)	ブロックロー テーション加 算 (麦・大豆)	生産面積 単収(大麦) 単収(小麦) 単収(大豆)	(令和2年度) 117.0ha (令和2年度) 510kg/10a (令和2年度) 452kg/10a (令和2年度) 165kg/10a	(令和5年度) 180ha (令和5年度) 520kg/10a (令和5年度) 480kg/10a (令和5年度) 210kg/10a
5	大豆 (ミヤギシ ロメ) (基幹作・ 二毛作)	地域特産品加 算 (大豆)	生産面積 10a 当たりの収量	(令和2年度) 85.7ha (令和2年度) 177kg/10a	(令和5年度) 150ha (令和5年度) 210kg/10a
6	飼料作物 (青刈りとうも ろこし) (基幹作・ 二毛作)	青刈りとうも ろこし加算 (飼料作物)	作付面積 飼料作物全面積における青刈りとう もろこしの取組割合 10a あたり労働時間	(令和2年度) 25.5ha (令和2年度) 14.6% (令和2年度) 3.5h/10a	(令和5年度) 42ha (令和5年度) 23% (令和5年度) 3.3h/10a
7	大豆・飼料 作物 (二毛作)	大豆・飼料作 作物 二毛作助成	二毛作取組面積 戦略作物(基幹作物) 及び野菜作付面積の 内二毛作に取り組んで いる割合	(令和2年度) 116ha (令和2年度) 19.3%	(令和5年度) 195ha (令和5年度) 32%
8	飼料用米 生産ほ場の 稲わら (基幹作 作物)	稲わら利用助 成 (耕畜連携)	飼料用米生産面積の うち稲わら利用(堆 肥施用)取組面積	(令和2年度) 143ha (令和2年度) 94ha	(令和5年度) 250ha (令和5年度) 212ha
9	長ねぎ 青ねぎ にんじん たまねぎ 未成熟そら まめ ブロッコリー トマト ハトムギ	地域振興作物 助成	地域振興作物の 作付面積	(令和2年度) 21.5ha	(令和5年度) 33ha
10	飼料用米 (基幹作 作物)	複数年契約助 成	複数年契約取組 面積・数量 作付面積・数量	(令和2年度) 171.7ha・1,016.4t 215.6ha・1,273.6t	(令和5年度) 240ha・1,440t 250ha・1,500t

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり